大阪インターナショナルチャーチ　　ダニエル・エルリック牧師　　2012 年 4 月 15 日
シリーズ: 使徒言行録#17　　聖書個所: 使徒言行録 5:17-26　　中心聖句: 使徒言行録 5:20
タイトル: 民衆に告げなさい　　子どもたちのためのメッセージ

I.　導入

おはようございます。前回の使徒言行録のメッセージで、初代教会の時代には、驚くような奇跡が日常的に起こっていたことを学びました。当時、主は使徒たちの働きをとおして、非常に力強い方法で働いておられました。そして、すばらしい奇跡がたくさん起こりました。先週読んだ**使徒 5:16** には、こう書かれていました。**「また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらった。」**この個所から、エルサレムおよび他の町の人々が使徒たちの行った奇跡を見て、喜びに満たされていたことがわかります。しかし、今日の個所にある宗教指導者たちの反応は、ずいぶん違ったものでした。では、使徒 5:17-26 をお読みしましょう。

II.　聖書朗読　使徒言行録 5:17-26 (新共同訳)

5:17 そこで、大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、ねたみに燃えて、
5:18 使徒たちを捕らえて公の牢に入れた。 5:19 ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開
け、彼らを外に連れ出し、 5:20 「行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆
に告げなさい」と言った。 5:21 これを聞いた使徒たちは、夜明けごろ境内に入って教え
始めた。一方、大祭司とその仲間が集まり、最高法院、すなわちイスラエルの子らの長老
会全体を召集し、使徒たちを引き出すために、人を牢に差し向けた。 5:22 下役たちが行
ってみると、使徒たちは牢にいなかった。彼らは戻って来て報告した。 5:23 「牢にはし
っかり鍵がかかっていたうえに、戸の前には番兵が立っていました。ところが、開けてみ
ると、中にはだれもいませんでした。」 5:24 この報告を聞いた神殿守衛長と祭司長たちは、
どうなることかと、使徒たちのことで思い惑った。 5:25 そのとき、人が来て、「御覧く
ださい。あなたがたが牢に入れた者たちが、境内にいて民衆に教えています」と告げた。 5:26
そこで、守衛長は下役を率いて出て行き、使徒たちを引き立てて来た。しかし、民衆に石
を投げつけられるのを恐れて、手荒なことはしなかった。

III.　教え

宗教指導者たちは、奇跡的に癒された人々を見て、神をたたえることもできたはずです。しかし、彼らの選んだ反応はそうではありませんでした。**(使徒 5:17)「そこで、大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、ねたみに燃えて、」**彼らはねたみに燃えて使徒たちを捕らえ、彼らの働きをやめさせようと再びしました。この宗教指導者たちの行動から、彼らが神を畏れていなかったことがわかります。みことばの知識があり、宗教組織においては高い地位にいましたが、神を畏れていなかったのです。

この宗教指導者たちは、みことばに精通していました。**「主を畏れることは知恵の初め。これを行う人はすぐれた思慮を得る。主の賛美は永遠に続く。」**という**詩篇 111:10** のみことばも知らなかったはずはありません。けれども、どういうわけかみことばの警告を無視して思い上がり、自分たちの権力や権威を過信してしまいました。多くの根拠が示されたにもかかわらず、イエスをメシアとして受け入れず、イエスの弟子たちに対しても陰謀を企てています。彼らのこういった態度を批判するのは簡単です。しかし、彼らの過ちを戒めと取るほうが私たちのためになるでしょう。

私たちは、高慢やねたみといった気持ちから自分の心を守らなければいけません。私たちの

歩みは、従順で謙虚なものであるべきです。それは、主イエスの模範に倣う歩みです。マタイ **20:26b-28** でイエスが弟子たちに教えられた姿勢を常に覚えておきましょう。**「20:26 ･･･あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、 20:27 いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。 20:28 人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」**

（絵画：ペテロの足を洗うキリスト、フォード・マドックス・ブラウン）

主は恵みと忍耐をもって、私たちが悔い改めるのを待っていてくださいます。けれども、主の忍耐はいつまでも続くものではありません。エルサレムの宗教指導者の場合もそうです。ヨハネ 2 章で、イエスは神殿の境内から両替人たちを追い出し、歩み方を改めるように注意なさいました。そこから主は、40 年もの間、彼らが悔い改めるのを待っておられました。しかし、その日はやってきませんでした。ついに主は、エルサレムの町と神殿がローマ帝国の軍に滅ぼされるのを許され、裁きを下されました。紀元 70 年のことです。

デビッド・ロバーツは、ローマ帝国軍によるエルサレム包囲の様子をこのように描きました。この絵では、まだ神殿は焼け落ちていませんが、この攻撃で、町は破壊され、神殿は焼失しました。神殿が壊されるのを神がお許しになったのには、二つの理由があると思います。ひとつめは、大祭司や長老たちに対する裁きです。彼らは、怒りやねたみが理由で、イエスの弟子たちを迫害し続けました。ふたつめは、礼拝の場所という神殿の存在目的が終わったからです。イエスの来臨により、教会を中心として神に礼拝をささげるようになり、神殿は神のご計画の中でもはや必要がなくなったということです。

今日の聖書個所に戻りましょう。ユダヤの宗教指導者たちは使徒たちを捕らえさせ、投獄しました。しかし、神の働きに人が抵抗しても、うまくいきません。そういうわけで、**使徒 5:19** でみことばはこう語ります。**「ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、」**聖書の中で、天使はいろいろな役割を果たします。信徒を助け出したり、神からのメッセージを伝えたり、神の裁きを実行することもあります。

それなら、なぜ神は天使たちを使って世界中にイエスの福音を宣べ伝えさせないのかと思うでしょう。天使なら、私たちより速く効果的にできると思います。しかし、人知を超えた神の知恵とご計画のうちに、現代においては教会に福音を宣べ伝える働きを託しておられるのです。教会時代においては、堕落した世の人々に手を差し伸べ、イエスの愛とイエスを信じる信仰によって得る救いの良き知らせを分かち合う務めは教会に与えられています。教会とは、イエスを信じる私たちすべてを指します。

そこで、天使は使徒たちに福音を伝える働きに戻るよう指示します。**(使徒 5:20)「『行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい』と言った。」**使徒たちは、天使によってもたらされた言葉に従い、翌朝すぐに神殿の境内で教え始めました。長老たちも番兵も使徒たちがどうやって牢を抜け出したのかさっぱりわかりませんでした。それでも、使徒たちが神殿の境内で教え始めるやいなや、再び番兵を送って、彼らを捕らえました。その後どうなったかは来週お話します。

今日は、天使が使徒たちに与えた指示に注目したいと思います。この指示は、３つの部分から成ります。行く、立つ、告げる、です。この３つの言葉は、福音伝道について多くを教えてくれます。まず「行く」です。私たちは、積極的に信仰を分かち合うべきです。受身ではいけません。

イエスについて誰かが聞いてくれるのを家や教会でただ待っていてはいけません。むしろ、率先して足を踏み出す必要があります。人々のもとに行くのです。イエスのことを聞いたことがない人すべてのもとへ行くのです。そして、そこにたどり着いたら、「立つ」必要があります。これは、忍耐について語っています。一度行って福音を分かち合ってそれで終わりではありません。そこに立ち、忍耐を持って、福音を伝えようと奮闘し続けるのです。人々が抵抗しても、無関心でもです。３つめの言葉は、「告げる」です。イエスのことを人々に告げなければなりません。神の愛を伝えなければなりません。罪と悔い改め、そして赦しについて知らせなければなりません。この新しい命について最大限伝える必要があります。

ローマ 10:13 にはこうあります。**「『主の名を呼び求める者はだれでも救われる』のです。」** これはすばらしい約束です。しかし、パウロはそれに続けてこうも言っています。**ローマ 10:14-15 「10:14 ところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞くことができよう。 10:15 遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。『良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか』と書いてあるとおりです。」**

主は、御名を呼び求める者に無償で救いを与えてくださいます。しかし、その福音の知らせは告げられなければなりません。主はその使命を私たち教会に与えられました。**マルコ 16:15** で、その命令はこのように語られています。**「それから、イエスは言われた。『全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』」** これは、教会全体への命令です。いつの時代も、教会は福音を全世界に告げ知らせる責任を負っています。

しかし、特定の時と場所に置かれたクリスチャンひとりひとりについてはどういうことがいえるでしょう。私たち皆が世界中のすべての国に行って福音を宣べ伝えることはできません。それは不可能です。けれども、この大宣教の働きの中でなすべき役割が一人ひとりにあります。そして、誰でも行って、立って、福音を告げるべき場所が与えられています。天使が使徒たちを牢から連れ出した後、**使徒 5:20** で天使は彼らにこう言いました。**「行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」** その日、使徒たちの働きの場は神殿の境内でした。私たちは自分に問いかけるべきです。私が福音を語るべき場所はどこなのだろう、私にとっての神殿の境内はどこなのだろう、と。

マルコ 5:19 で、イエスがある人から悪霊を追い出すと、その人はイエスと一緒に行きたいと願いました。しかし、イエスはこのように答えておられます。**「イエスはそれを許さないで、こう言われた。『自分の家に帰りなさい。そして身内の人に、主があなたを憐れみ、あなたにしてくださったことをことごとく知らせなさい。』」** その日、その人にとっての「神殿の境内」は、自分の家であり、身内の人だったわけです。

ルカ 10:1 にはこうあります。**「その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。」** この言葉をもって、弟子たちは各地の小さな町や村すべてに送り出されました。

使徒 16:9-10 でパウロは幻の中で召しを受けます。**「 16:9 その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、『マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください』と言ってパウロに願った。 16:10 パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。」** パウロは新しい働きの場、新しい「神殿の境内」を示されました。そこで、イエスの福音を「行って、立って、告げる」のです。

家族に福音を告げるよう召されるクリスチャンもいます。また、職場の同僚に伝えるよう召される人もいるでしょう。大阪で路傍伝道するよう召される人もいるかも知れません。東北の被

災地に召される人もいるでしょう。海外に召される人もあるでしょう。または、同じ人が何ヶ月、何年という期間の中で、これらすべての召しを受けることもあるでしょう。毎年、そして毎日、私たちにはそれぞれの「神殿の境内」が与えられています。それは、イエスの愛を分かち合うための場所です。

イエスの良き知らせを世界中に分かち合うという命令は、教会全体に与えられています。しかし、その働きの中に、それぞれにいるべき場所と役割が与えられています。私たちは皆、違った賜物と能力を持っています。ですから、福音を宣べ伝える方法もそれぞれです。けれども、方法に違いがあるにせよ、イエスの福音を分かち合うことは私たちすべてに与えられた命令なのです。

IV. 結び

今日、皆さんにお勧めします。祈りの中で、主に、「私にとっての神殿の境内はどこですか」と尋ねてみてください。主は、家族に伝道するようにと自分の家に送られるかもしれません。または、古い友人に連絡をして食事に誘うよう示されるかもしれません。職場の同僚や学校の友だちに伝道する重荷を与えられるかもしれません。大阪での路傍伝道に召される人もいるかもしれません。または新しい土地に引っ越すよう示され、新しい働きを与えられるかもしれません。どのような方法でどこに導かれたとしても、私たちはひとりぼっちではありません。主がいつもともにおられると約束してくださったからです。

私たちには、命令と約束が与えられています。あなたはそれに従いますか。私はこのように祈ります。私たち皆がイエスに「はい」と答えますように。そして、イエスの愛をすべての人に分かち合いなさいという命令にも「はい」と答えることができますように。最後に、**マタイ 28:18-20** をお読みいたします。**「28:18 イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。 28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、 28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」」**

では、祈りましょう。

V. 祈り

愛する天の父よ、

あなたの聖名をたたえます。そして、あなたの恵みあわれみを感謝します。あなたは御子イエスを送り、私たちの身代わりに十字架上で死なせることで、深い愛を私たちに示してくださいました。また、イエスを死からよみがえらせ、罪の赦しと永遠のいのちのすばらしい約束が確かなものであることを証明してくださいました。イエスをとおして、あなたは私たちに福音を世界中に携えるようにと命じられました。主よ、今私たちのところに来てください。そして、聖霊によって私たちのうちに働いてください。私たちの心と思いを開いてくださり、あなたの御声を聞くことができるようにしてください。主よ、私たちをどこへ遣わされるのでしょうか。誰のもとへ行けばよいのでしょう。どの場所で、人々に恵みとあわれみの良き知らせを伝えればよいのでしょう。主よ、私たちには、命令と約束が与えられています。どうか、あなたの御国の働きのために与えられた自分の役割をちゃんと知ることができるよう助けてください。あなたの民にお語りください、主よ。あなたの驚くべき恵みを人々に伝える勇気を与えてください。主よ、私たちが日々直面する困難のひとつひとつをあなたはすべてご存知です。どうか、私たちの上にお働きください。病気の人には癒しを、疲れて弱っている人には力を、落胆している人には新たな希望を、落ち込んでいる人には新たな喜びをお与えください。あなたの力強いご臨在で祝福してください。あなたの聖霊で満たし、救いの喜びを改めて感じさせてください。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。